

ベンチャー・技術教育への経済・経営感覚導入に関する一検討Ⅱ

－“まちなか”での「教経会」実施の効果－

有明工業高等専門学校 ○森山 英明 清水 暁生 相賀 宏 石川 洋平 菅沼 明
福岡県立ありあけ新世高等学校 石橋 良容
永利公認会計士事務所 永利 新一

1. はじめに

有明高専では、2009年より起業教育を実施しており、昨年度から指導者の経済・経営感覚醸成の場として「教経会」を発足させ約2年間活動を続けてきた^[1]。本年度からは商店街の中に設けられた施設で活動を開始した。

本発表では、ベンチャー教育の実績と教経会の現状と課題を踏まえて経済・経営・工学を“まちなか”で語り合うことの重要性について報告する。

2. 有明高専におけるベンチャー教育の実績

有明高専では2009年より大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト（以降、VBPC）に参加している。また、2012年から佐賀ビジネスプランコンテスト（以降、佐賀BPC）に出場し、表1に示す様に両コンテストを通して5年連続の受賞を果たしている。

3. 教経会の実績

有明高専では2.で示した通り継続的にベンチャー教育の実績が上がっている。教経会を通じたベンチャー教育の重要性の共有が大きな一因と考えられる。昨年（2013年）の報告以降の実績を表2に示す。

4. まちなかシリコンバレー^[2]

商店街の空き店舗を活用してIT企業誘致（2F）と市民のふれあいサロン（1F）を目的とした“まちなかシリコンバレー（以降、MSV）”が大牟田銀座通商店街を運営母体として作られた（図1）。

2Fに誘致された企業は株式会社ASKプロジェクト^[3]で、有明高専電子情報工学科石川研究室他と佐賀県の木村情報技術株式会社との共同研究「企業・高専連携によるソフトウェア開発教育手法の検討」を発展させて誕生したものである。

現在、株式会社ASKプロジェクト（ASKは共同研究のアライアンスである有明高専・佐賀大学・木村情報技術の頭文字をとったものである。）を通じて学生のインターンシップ引き受けや、仕事の基礎力講座の開催を行っていただいている。

本年度はMSVの1Fサロンを教経会の会場として活用を開始した。また、同フロアには有明高専のサテライトオフィスとして相賀コーディネータを中心に共同研究の窓口を準備中である。

5. 教経会 in MSV

MSVで教経会を開催することにより、大牟田市を中心という好条件もあり、他高校や、企業か

表1 コンテスト実績（2009 - 2013）

年度	コンテスト名	プラン名	受賞名
2009	第9回VBPC	携帯電話に特化した 理学・作業療法士コミュニティの構築	九州経済産業局長賞
2010	第10回VBPC	表面筋電位を用いた身体障害者支援システム	優秀賞
2011	第11回VBPC	技術教育を組み込んだ 福祉機器の開発・販売事業	優秀賞
2012	第8回佐賀BPC	剣道用靴下 ーより安全な剣道をー	金賞
2013	第9回佐賀BPC	商店街の空き店舗を活用した地域再生ビジネス Webを用いたデザイン性の高い背表紙の拡販	銀賞 優秀賞

表 2 教経会の開催実績（第 10 回以降）

開催回数	開催日	内容	担当
第 10 回	2013/9/20	論語と算盤 第 7 章、経緯発表報告	石川
第 11 回	2013/10/15	論語と算盤 第 8 章	森山
第 12 回	2013/11/29	論語と算盤 第 8 章、有明高専の紹介	森山
第 13 回	2014/1/21	論語と算盤 第 8 章	森山
第 14 回	2014/2/25	論語と算盤 第 8 章	森山
第 15 回	2014/3/13	論語と算盤 第 9 章	石川
第 16 回	2014/4/21	論語と算盤 第 9 章	石川
第 17 回	2014/5/21	論語と算盤 第 9 章	石川
第 18 回	2014/6/16	論語と算盤 第 10 章	石橋
第 19 回	2014/7/14	論語と算盤 第 10 章	石橋
第 20 回	2014/8/19	論語と算盤 第 10 章	石橋



図 1 MSV の外観（オープニング時）



図 2 MSV での教経会の開催

らの参加が容易になった。表 2 中の第 15 回から MSV で実施している。現在、手探りではあるが異分野の交流拠点としての可能性を探っている。

教員が学外に出て色々な方々と交わるためには、自ら場所を作る必要がある。MSV の活用はその第一歩となることを期待している（図 2）。

6. おわりに

ベンチャー教育を教員が真剣に取り組むことは学生にとって大きな励みとなる。教員自身が教経会を通じて、経営・経済の知識を深めることにより学生指導力も向上することが期待される。さらに、MSV を活用することにより異種多彩な交

流が可能となる。今後は教経会を通じて、MSV での活動の輪をさらに広げていく予定である。

謝辞 本プロジェクトは有明広域産業技術振興会の地場産業振興支援研究「地場企業と連携した「起業」に関する協働教育システムの構築」助成の一部として実施したものである。

教経会を運営するにあたりご協力いただいている MSV および株式会社 ASK プロジェクトに感謝いたします。

参考文献

- [1] 森山英明, 清水暁生, 相賀宏, 石川洋平, 菅沼明, 永利新一, “ベンチャー・技術教育への経済・経営感覚導入に関する一検討,” 日本産業技術教育学会第 26 回九州支部講演論文集, p. 101, 2013.
- [2] <http://msv.asia>
- [3] <http://ask-project.net>